

Weekly

Rotary

東京八王子西
ロータリークラブ



Report



●2017~2018 年度国際ロータリー テーマ
RI 会長 イアン H.S. ライズリー

ロータリー：
変化をもたらす

2017~2018 No.12 平成30年2月23日

●会長標語 会長 福山 眞吾

たかがロータリー・されどロータリー

今週のプログラム

- 第2499回(2/26~27)
- 会場 グランドプリンスホテル新高輪

*地区大会

次回のプログラム

- 第2500回(3/3)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*全体事業 2500回記念例会

十一代大樋長左衛門(年雄)氏記念講演 & 茶会

クの前年である1963年、昭和38年1月15日に山梨県東八代郡三珠町という場所で生を

ていただければ幸いです。

さて私は、先の東京オリンピックの

い

私



末木 博 会員

イニシエーションスピーチ

受けました。

父親は山梨県警の警察官であり、当時の山梨県の警察官は異動時には家族全員で転居しなければならぬという掟があり、ここを皮切りに、後に山梨県内で8箇所の引越しを経験することになります。

ちなみに、幼稚園で2回、小学校で3回、中学校で2回の転校を経験しております。

通学意欲を消した

文理学部哲学科

その後、山梨県立甲府第一高等学校を卒業し、日本大学文理学部哲学科に進学いたしました。この学生生活が、私にとつてのはじめての東京生活であります。日本一大きな大学である日大の中にあつて、哲学科という学科はもともと小さな学科であり、学生もさることながら、教授陣も大変変わっており、たとえば宗教学の教授にいたつては「手のひらに天使は何匹乗るか」というような、まったく訳のわからない命題に真剣に取り組んでいる、というような、非常に

に奇怪な学科でありました。

そのような中に身をおいた私は、たちどころに学校に通う意

欲が雲散霧消し、日々新宿や渋谷などの繁華街で、朝から夜中まで友人と遊び呆ける、という自堕落な生活に転落したことは言うまでもありません。

いま思えば、哲学科などに行かず、医学部や法学部などに進学しておれば、お医者さんか弁護士というような立場で皆さんにお会いできていたのかもしれないなあ、などとも思うわけでありますが、もともと高校時代より学習意欲の欠落していた人間であつたため、そのような高尚な学問を学べるような訳もなく、今の立場でここに立っている、というのもある意味必然なのかもしれない、とも思うわけですが。

ともあれ、そのような漂流的学生生活を謳歌しつつ、「ニーチェでロックンロール」という、哲学どころか世の中をなめ切つたようなタイトルの卒業論文を提出し、辛くも大学を卒業することができました。

ちなみに、その題名は、この年の三大変なタイトルの卒業論文のひとつ、という栄誉を頂いたわけでありますが、他の二本は「古代ギリシャにおけるプロレスの市民権について」というものと「松田聖子の美学」というタイトルで

ありました。

さて、そのような学生生活の果てに私が社会人になった当時は、まさに爛熟するバブルの晩年期であり、世の中には実体のない虚業が跋扈し、それらがまたなんとも不健全な魅力を感じていたのでした。

広告業界とバブル崩壊

そのような浮かれた社会情勢の下、私が選んだ就職先は広告業界でした。志望動機は「かつこいい」とか「女性にもてそう」といった非常に不純なものでした。何の職業的スキルも専門知識もない私でしたが、バブルに狂乱している世の中ゆえ、何とか銀座の小さな広告代理店に職を得、営業として社会人生活をスタートいたしました。

非常に忙しい日々でしたが、当時の広告業界はまさに虚業の花形のような業界であり、大手代理店の20代前半の社員が、当たり前のように月々100万円を超える接待費を使っている姿などを目の当たりにし、そのおこぼれを享受しながらも、私のようなものですら「何かがかしい」と思いながら過ごしていたら、案の定バブルは崩壊しました。

2018.2.9 (金)

景気が悪化すると真つ先に見直されるものが広告宣伝費であり、そのあおりを受けた私の会社は一気に低迷し、私は入社2年ほどで退社して山梨に帰ることになりました。

帰つてみると、地方の経済的疲弊具合は首都圏に輪をかけて深刻であり、広告業界に職を求めることなど、不可能な状態になっていたのです。

早野組へ

そんな中、公共事業を受注する生業の業界は比較的安定しており、縁があったこともあり、私は道路標識を設置する(株)ロードという会社に勤め、広告の知識を生かしてデザイン性の高い観光案内板などを企画営業する仕事をするようになりました。

デザインを扱うという若干の関連性はあるとはいえ、広告業と建設業では真逆といつていいほどの相違があり、戸惑いつつ始まった建設工事の営業生活でした。しかし、それまでの平面的なものづくりとはまた違った、立体的な構造物を生み出していくという、建設ものづくりに携わることの楽しさを徐々に覚えて行つた時期でもありました。

そんな暮らしを15年ほど送っていたのですが、あるとき、思いもなかった悲劇が会社に降りかかりました。それは、社長が交通事故で40代の若さで急死してしまふ、という事件でした。

そもそも(株)ロードという会社は、山梨県内の主要ゼネコンが出資して作つた企業であり、社長は世襲で就任する会社ではなかったため、代表が若くして亡くなつてしまふという出来事に、社員は途方にふれてしまつたのです。

そこで、残された幹部社員が株主であるゼネコンを回り、今後の会社の存続について伺いを立てることになったのですが、なんと、筆頭株主であった山梨県最大手ゼネコンである早野組の社長から「私が社長になるので会社を存続せよ」という話を頂くことになり、急転直下、山梨県で一番小さな部類の建設会社に山梨県で一番大きな会社の社長がやってくるようになったのです。

とはいえ、日々の業務が劇的に変わるといふようなこともなく、私は淡々と働いていたのですが、何度か早野社長と面談することはありません。

そしてある日社長室に呼ばれた私は「もつと大きなものを売る仕事をせよ」と突然命を受け、本社早野組でゼネコンの営業として働くことになったのです。

このときにもつとも印象に残っているのは、本社勤務を命じられ移籍をするまでに与えられた引継ぎ時間が3日間であり、恐ろしいことにその短時間で引継ぎが完了してしまつたことです。15年以上勤務していた業務の引継ぎがわずか3日で完了してしまふということに、サラリーマンというものの儚さを感じたものでした。

そのような経緯を経て早野組の社員になった私でしたが、数年間の本社勤務を経験した後、平成20年1月、今度は東京支店傘下である、新宿営業所への勤務を命じられることとなり、その昔バブル崩壊のあおりを受け、追われるように去つた東京で再び働くことになりました。そうして、新宿で約8年間業務に従事した後、平成28年7月に東京支店に配転となり、今に至ります。

趣味の話

今こうして、あらためて自分

の半生を振り返つてみると、ま

たくもつて海原の波間を漂う藻のような、定着することのないフワフワした人生だよね、と思うわけであります。そのせいか、私の趣味は海釣り、週末になるとほぼ、相模湾の沖にフワフワと浮いております。今の時期はもっぱら、真鯛と石鯛、それにアマダイを狙つていて、もうしばらくすると春の濁り潮が入つてきて、金目鯛、クロムツなどの深海の魚を追いかけることになり、ゴールデンウィークの頃からイサキ、キントキなどの五目釣りにシフトし、8月から秋まではキハダマグロを追いかけております。ちなみに昨年は、28kg、26kg、24kg、23kgの四本のキハダを釣り上げることができました。今年も今から、8月1日の解禁日が待ち遠しくてたまりません。機会があつたら、皆様にマグロの刺身を食べていただきたいな、と思つております。

よく人からは「ゼネコンの営業なのにゴルフはやらないの？」と聞かれますが、答えは単純でありまして、これにゴルフもやってしまつたら破産してしまうから、という理由と、釣りとゴルフを両立させてしまふと、仕事をしている時間がなくなつてしまふから、という二つの理由にほか

なりません。

こんな私ではありますが、このたび八王子の地において、東京八王子西ロータリークラブ会員の皆様と知己を得ることができたことを大変な僥倖であると思つております。先に述べたとおり、大学卒業から一貫してサラリーマンとして生きてきた私は、経営者として成功を収めた諸先輩の言動や生き様といった哲学に触れることができるという貴重な機会にめぐり合えたからであります。

最後になりますが、私の尊敬するニチエの名言に「高く登ろうと思うなら、自分の足を使うことだ。高いところへは、他人によつて運ばれてはならない。人の背中や頭に乗つてはならない」という言葉があります。皆様と触れ合うことで学ばさまざまなことを貪欲に吸収し、自分自身の糧として醸成していきたいと思つております。そして、自分の足でしっかりと歩き、後の人生をさらに充実したものにしていきたいと思つております。どうぞ皆様、若輩者ではありますが、今後とも指導・鞭撻の程、よろしくお願いいたします。ご清聴、ありがとうございます。



黒須隆一 名誉会員

私の生い立ち

まず私の生い立ちですけど、昭和17年1月20日生まれ、現在76歳でございます。

生まれたのは、住所から言いますと東京都西多摩郡小河内村熱海850番地になります。

今は西多摩郡奥多摩町となっております。またその場所は完全に奥多摩湖の底、湖底にあります。父親が当時、戦前の土木工事としては世界四大土木工事といわれた小河内ダム建設に従事しております。そんな関係で現在は湖底の故郷になってしまったところに誕生したということです。弟2人妹1人の4人兄弟でございます。

小学校は、実は父親の親戚

で、出身地でもある栃木県黒磯町に預けられました。なぜ預けられたかといいますと、やはりダムを造るところですから、学校までの距離は、山道で1時間以上かかるわけです。大人の足でも1時間以上かかる。ですから、ちよとかわいそうだということ。で、親戚に預けられたわけです。自分が子供を持つてみると、小学校1年生の子供をよそに預けるということは、かなり勇気がいったらうなという思いがしております。3年生の時に弟弘道が入学するというところで、じゃあ一緒に行けばいいだろうということ、あつたときはめちゃくちゃうれしかったですが、父親が帰るときは私は悲しくて送れません。屏風の陰で1人泣いておりました。父親もつらかったらうなという思いが今でも残っています。3年時に弟と一緒に学校に行くことになったのですけど、何しろ遠いものですから、帰ってくると毎日二人で熱を出して寝てました。というのも体力より運動量が勝っていたものですから、結局熱を

出していたんです。それがかなり続いていたという気がします。6年生になったとき、父親が自分の担当している部分が終了したということ、八王子にご縁があつて、昭和28年の11月23日に八王子に来ました。第一小学校に編入され、小学校だけでも大規模な学校、中規模な学校、現在なくなつてしまつた学校と3つの学校に通いました。それから地元八王子で育つてきたわけですけど、大学に入るときに父親が、長男が家を継ぐということで、教育を徹底的に行つていたわけです。ですから後継者教育をしていたということです。学校も工業系を学びなさいということ、で、工業系を専攻いたしました。大して役に立つたか立たなかつたかわからないのですが。

趣味
モータースポーツ
について

その間趣味というのは、私は自動車が好きで、それが昂じたのでしょけれど、学校を卒業して、どこにも就職しないで、家業に従事したわけです。結果とし

て10年間従事したわけですが、その間自動車の趣味が昂じて、カーレースに参加をしました。今でいうモータースポーツ、レーシングドライバといつてますけど、かねてから私はやるときは熱中してやるものですから、仕事も人に負けないくらいやりました。が、時間を何とか都合をつけては、レースをやつてました。ちょうど6年間、23歳から29歳までレースをやつたんですけど、当時は日本のモータースポーツの黎明期ということで、大変な人気でした。私はその中でいくつか思い出に残るレースがあるんですが、1969年の日本グランプリは、日本の全メーカーが参加したんです。そしてお客さんが富士スピードウェイに10万人くらい集まつた。これは過去にも現在にもそれだけのお客さんが集まるレースはありません。そのレースで私はクラス優勝を致しました。そのレースでただ一人だけ選ばれる日本モータースポーツ記者会賞というのをいただきました。その時は新聞だけでなく、いぶん週刊誌にも取り上げられました。それから1971年、

これが最後のレースだったんですが、マカオグランプリで2着になりました。それで私はあくまでホビーでしたから、自分の納得するところ、いわゆる海外のレースで競争できたところで引退しようとしていたんです。幸いにして自分なりにいいレースができたというようなこともありまして、帰りましてから引退をしたわけです。その時でも最近でもA級ライセンスを持つていて、とかあるじゃないですか。当時FIAの本部がパリにありますから、パリのFIAの本部の発行のインターナショナルAという国際Aという、これがあると外国のレースに出られますが、それを所持してました。辞めてからは返上しましたけれども。私の大学の卒業論文も、「日本自動車工業の推移と展望」という題で、つい先日、当時の担当の先生がその大学の学長になつて、お祝したときにそれを全部返してくれまして、50年ぶりにそれが手元に戻つた。今読んでみてもなかなか良いことが書いてある。自画自賛というのですけれど、

そんな思い出があります。2001年に（2002年に市長に就任したので）専門誌で「20世紀に残るドライバー100人」という特集があつて、その中に私ちゃんと入っていました。現在は、当時の今現役でないドライバーの人たちの会で、レジェンドレーシングドライバーズクラブ、メンバーが55人ほどいますが、名前を申しあげればどなたも知っているレジェンドの方ばかりです。その中のメンバーの一人にもなっているです。

一大決心

議員への挑戦

ちょうど家業の会社で10年経過して、33歳の時に私の転機が訪れました。それは縁があつて周りの人にすすめられて、市議会議員の選挙に出ることになつたんです。これは私は自分としては考えられないことでした。家業を継ぐということ徹底的に教育されてきましたので、市議会議員の選挙に出るということは自分のこととは思っていませんでした。田辺会頭もいらつしやいますが、田辺会頭のお父さん等にすすめられて、男三人兄弟なんだから、一人くらい世のため人のためにやつてもいいだろうという口説かれ方をしま

した。一番上が向いてそうなので、けつこう無責任な話ですが、ここまで言われたらやらなければいけないなど、私も一大決心をして、選挙に出ました。おかげさまで当選をさせていただきました。3期務めさせていただきまし。3期務めたときに次は都議会の選挙がありまして、先輩の議員から出なさいと言われ、出たんですけれど、残念ながら落選をしました。3万1000票いただいたんですが、1000票足りなくて、次点で落選して、4年後を目指したわけなんですけれど、当時は定数3人で、そこに自民党は2人公認するわけですから、今と全く状況の違う厳しい選挙で、次の選挙も3万7000票いただいたんですけれど、500票足りずに落選しました。これは本当に私はつらかったです。結果として次を目指すことになって、トータル8年間、いわゆる浪人生活を送りました。今も思い出したくないですね。精神的にもものすごくつらかったです。生活とか日々の活動には、肉親もそうですけれど、多くの皆さんに物心両面のご支援をいただいて、それで8年間乗り切ったわけなんですけど、精神的にはめちゃくちゃつらかったです。ですから今でもその8年間は思い出

したくないです。思い出すと皆さんの前でも涙が出ます。それくらいつらい8年でしたけど頑張りぬくことができました。今考えてみますと、8年間は未熟な私を育てていただいた、神様の仕組みだったのではなかったかと思ひます。あの8年があつたからその後の人生があると私は今思っております。2期当選をして、平成12年に市長選に立候補させていただきました。この決断も苦しかったです。8年浪人してやつと当選したのに、現職の波多野市長と戦つたわけですから、もしこれに負けたら自分はもうすべてを失う、そういうことを考えたなら、決断は本当に難しかったです。これもやることになりました。おかげさまで当選をさせていただきました。3期12年間、最初は58歳だったんですけれど、70歳になったときに退任を致しました。私は3期でいいだろうという自分なりの理由がありましたけれど、それと同時に37年間地方政治一筋でしたけれど、そこから足を洗わせていただいたということになります。

成るときより

辞めるとき

辞める時のことを考えてみま

すと、政治家でトップを務めてみますと、なるときよりも辞める時の方がむずかしいです。なるときは勢いであつてしまふということもありますけれど、辞める判断というのは本当に難しいです。私は戦後6人目の市長なんですけれど、過去5人の方が本当にきれいな辞め方をなさっていないです。ですから私はやめる時はきれいに辞めよう、できれば惜しまれて辞めよう、そんな思いを強く持っております。おかげさまでうまく辞めることができました。今度は長く勤めていると周りの声が入りにくくなつてしまふんです。ですから直接、いろいろ言うてくださる方は少なくなつてしまふますから、判断に誤りが出してしまうことがあります。ですからそれがないように努力してきました。

活躍する後継者たち

また、政治家の役割として後継者を作ることがあると思つたわけなんです。幸いにして今衆議院議員として活躍している萩生田光一君が私の事務所出身です。7年務めてくれました。20歳から27歳まで務めてくれて、27歳の時に市議会議員に出ま

した。先日都議会議員になりました伊藤祥広君ですけど、彼は10年間私の秘書を務めてくれました。市議会にも何人か活躍している同志の人たちがおります。そういう面では私は幸せだと思っております。トータルで選挙10回、市議会3回、都議会4回、市長3回を経験をさせていただきました。選挙10回やつたというのは、私は八王子で初めてだったんですけど、トータル、累計で40万人の人にお名前を書いていたいたという事であります。最初から10回お名前を書いていただいた方も少なからずいらつしやるわけですが、累計40万人、私はこれが大変誇りにいたしております。誇りとするとともに、この皆さんに引退しても恥をかかせることは絶対したくない、こういう思いは現在でも常に頭にあります。現在は、伝統あるこの八王子西ロータリークラブの一員として皆さんにお世話になつております。大変充実した毎日を送らせていただいております。あらためて感謝を申し上げたいと思います。

台湾に残る日本人の足跡は紙面の都合上、次回とさせていただきます。

例会 報告

第2498回 ● 2018・2・16 (金)

◇司会 白柳会場監督補佐

◇開会点鐘 福山眞吾会長

◇Rソング それでこそロータリー

◇お客様のご紹介 福山会長

八王子青年会議所

青田一宏理事長

森林パトロール隊支援委員会

後藤隆博委員長

◇食事と交歓 和食

◇出席報告・ニコニコ発表

竹松健出席財務委員長

会員 110 名中 78 名出席。

出席率 65・34%。前回 1 月

12 日のメイクアップ大田吉彦

会員外 7 名。前々回 12 月 22

日の出席率 77% を 100% に

修正。

◇会長挨拶 福山眞吾会長

*20 日にはまた雪が降るよう

で、雪に弱い東京をまた見る

のかなと思います。北陸東北

は大雪で大変そうです。

*山形の米沢では雪の中で育つ

「ふすべ」という野菜がありま

す。雪の中から掘り出して湯

がいた後水で晒して食べると

とても美味しいそうです。

日本では四季折々の野菜や

果物に恵まれ楽しみがある

なと思います。

*田中貞男大先輩からいただいた

生地で西川さんが作ってく

ださった半纏がようやく出来

上がりまして皆さんにお披露
目することができました。3
月 3 日の記念例会で皆さん
で着られるのが楽しみです。

◇森林パトロール隊へ助成金贈呈



◇幹事報告 橋本孝幹事

*予納金より支援させていただ

いた八王子成人式プレゼント

実行委員会より、2/12 無

事開催できたことのお礼のメー

ルが届きました。

*2/27 地区大会へバス利用の

方は京王プラザホテル八王子

を 9 時に出発いたします。

帰りのバスは地区大会会場の

正面玄関より 16 時頃出発予

定です。変更があれば市川副

幹事か小杉副幹事へ連絡を

お願い致します。

地区大会のクラブ紹介で半

纏を着ていただければと思い

ます。

*地区から 1 人 1 本の植樹の取

り組みにご協力をと案内が

ありました。

*事務局が 2/20 と 3/1 休み

ます。

◇委員会報告

全体事業実行委員会

野口文男事務局長

◇スピーカー紹介

石田初雄会員

スピーカー・黒須隆一名誉会員

テーマ・イニシエーション・ス

ピーチ及び卓話「台湾に残

る日本人の足跡」

◇閉会点鐘 福山眞吾会長



● 2018・2・9 (金)

◇福山会長・末木会員のイニ

シエーションスピーチ楽しみ

にしています。

◇橋本幹事・末木会員イニシ

エーションスピーチ楽しみで

す。100% 出席の皆さま

おめでとございます。

◇土岐・誕生日の記念品をい

ただけるので。

◇萩原・SAA で本日司会を

させていただきます。

◇樫崎・本日 100% 出席の

表彰を受けますので。

◇西川・誕生日のお祝いをあ

りがとございます。

◇鈴木重春・検査入院のため

欠席いたします。

◇坂下・妻の誕生日ありがとうございます。

とございます。

◇伊藤・今月は結婚記念日の

花をありがとうございます。

◇鳥羽・今月誕生日を頂きま
すので。

◇町田・結婚記念日にお祝の
お花をいただきありがとうございます。

◇末木・本日はイニシエーシ

ンスピーチです。よろしくお

願います。

● 2018・2・16 (金)

◇福山会長・黒須隆一名誉会

員の卓話を楽しみにしてお

ります。

◇橋本幹事・黒須名誉会員本

日よりしくお願いいたしま

す。西川会員半纏ありがと

ございます。

◇石田・黒須隆一会員のイニ

シエーションスピーチよろし

くお願い致します。

◇村内・名誉会員黒須さんの

卓話楽しみにしています。

◇田辺・黒須名誉会員の卓話

楽しみです。

◇黒須隆一・イニシエーシ

ンスピーチと卓話をさせて頂

きますので。

◇西川・2月12日に無事成人

式を再度行えました。皆様

のご協力に感謝申し上げます。

◇池田・結婚記念日にお花を

いただきました。ありがと

うございました。

◇的田・誕生日のお祝ありが

とございます。

(順不同・会員敬称略)

東京八王子西ロータリークラブ

〒192-0083 東京都八王子市旭町 14 番 1 号 京王プラザホテル八王子 8F

TEL.042-649-3751 FAX.042-649-3753

<http://www.hachioji-west-rc.org>

会長 福山 眞吾 幹事 橋本 孝 広報委員会 青木清治 浅川立憲 原 巖 土岐静雄 諸星宗幸 金子裕二 寺澤大介